

学年	教科等	単元名	日時
第6学年	外国語活動	Who is your hero? 「あこがれの人」	平成30年11月1日(木) 6校時
本時における「深い学び」	あこがれの人のよさを聞き手に分かってもらうために、どの英語等をどのように使えばよいかという思考を伴う学びです。仲間のあこがれの人についても同じ思考が伴っていれば、深い学びがあると捉えます。		

### 本単元における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」

「あこがれの人紹介」の目的、場面や状況を基に、相手に伝えるためにはどうすればよいかを考える。

- ・ あこがれの人の特徴やよさが聞き手に伝わるかどうか、話す内容と使う英語等を考える。
- ・ 紹介で使う英語は慣れ親しんできた語の中から選ぶ。それ以外を選ぶ場合は、みんなに伝わる語か考える。
- ・ He か She を選んだり、can+動詞(～ができる)と be good at +名詞/動名詞(～が得意である)のどちらが合うか考えたり、“well”や“very”を付けるか判断したりする。
- ・ よさが伝わるように選んだ英語をやり取りのどこに入れるか、語や文の順番をどうするかを考える。

### 「伝える工夫」や「思いや考え」について思考するための表現づくりの工夫

#### コミュニケーションの目的を明確にするために

- ・ 本時のめあてを示す際に、あこがれの人の何が伝わるとよいかを尋ね、子どもの言葉を基に設定した。
- ・ 教師の未完成の例を聞かせることで、どんな内容を付け加えれば、あこがれの人のよさが伝わるかを思考するようにした。

#### コミュニケーションで使う英語の曖昧さをなくすために

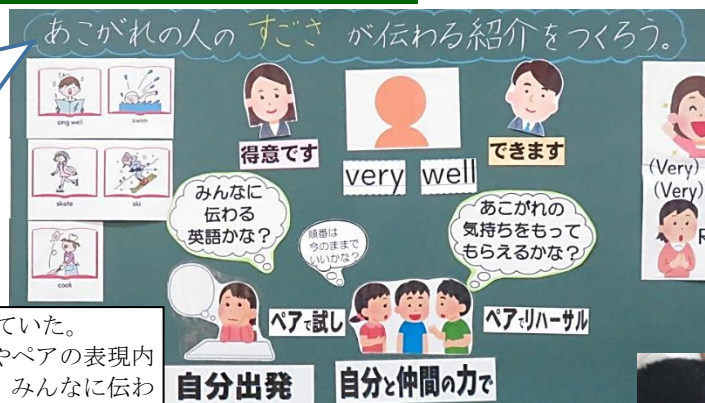
- ・ 男性、女性のイラスト、「できます」「得意です」の日本語、“sing”“play the piano”等のイラスト、“well”“very”の英語を示し、それらを使うとどのような英文になるか、組み合わせながら考えることができるようにした。

#### コミュニケーションの目的と実際の表現内容を基に思考し、表現力を高めるために

- ・ 自分が知っているだけでなく、みんなに伝わる英語なのかを考えて使うことを子どもとの対話をとおして確認した。
- ・ 聞き手に「あこがれの気持ちをもってもらえるかな?」「順番は今のままでいいかな?」という言葉を示し、目的をより明確にし、表現内容の工夫につながるようにした。
- ・ 個人→(普段の席とは違う)ペアで試しの伝え合い→(普段の席で)4人班で表現づくり→(最初の)ペアでリハーサル、という流れで行った。4人班での表現づくりやペアでのリハーサルのときに、互いの「あこがれの人紹介」についての意見交換を行った。

### 表現づくりを行った後のコミュニケーションにおける子どもの姿

「できること」、「得意なこと」、「歴史」、「特徴」、「すごさ」が意見として出された。その後、子どもとの対話を基に「すごさ」と板書した。



#### 【表現づくりで出た意見】

「得意なら good at だよ。」  
「お城って何て言うの。」  
うん・・・Big house!  
「戦いは battle かな。」  
「筋肉ムキムキだから muscle を使おう。」  
「特徴や性格を入れたほうがいいよ!」

- ・ 全員が表情豊かに伝え合っていた。
- ・ 自分の表現内容、班の仲間やペアの表現内容について、よさが伝わるか、みんなに伝わる英語かを考えながら悩んだり、思いついた英語を勢いよく言ったりしていた。
- ・ 英語が分からなかったり補足したりする際にジェスチャーを使っていた。
- ・ She is good at swim(本来は swimming)のような英文も使っていた。
- ・ 意見交換後に自分や友達の上達を実感していた。



### 実践をふりかえって：

「あこがれの人のすごさが伝わる紹介をつくる」という目的をもって、全員取り組むことができた。仲間との表現づくりの体験の積み重ねが思いや考えの共有につながっていることが子どもの姿に表れている。今は、語彙の少なさから英語で言うことがどうしても難しいものがある出るので、それを何とか、外来語を頼りに英語にしたり、ジェスチャーで表したりしている。子どもの柔軟な発想に驚かされることがしばしばあり、とても興味深い。今後は英語の正しさをどの程度まで求めていくか検討していく必要がある。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

# 授業実践計画

## ○ 指導計画（6時間）

- (1) 三人称に出会い、自分や第三者の得意なことや特徴等を伝え合う表現に慣れ親しむ。 — 2時間
- (2) 校内の先生にインタビューした結果を基に先生を紹介する。 — 1時間
- (3) 各自のあこがれの人を紹介するための表現内容を班で考える。 — 2時間（本時1/2）
- (4) 相手に伝わるように工夫しながら自分のあこがれの人を紹介する。 — 1時間

## ○ 本時の目標

あこがれの人のよさが伝わる「あこがれの人紹介」を考えたり表現したりする。

## ○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 チャンツやデジタル教材の視聴をして、本時の学習について確認する。</p> <p>○ 本時のめあて</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">あこがれの人のよさが伝わる紹介をつくろう。</p>	<p>○ 「あこがれの人紹介」のモデルとなるチャンツをしたり、動画の内容を全体で確認したりすることで、本単元でもたせたい思いを確認できるようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">もたせたい思い：自分のあこがれの人のよさを分かってもらいたい。</p>
<p>2 教師の例（写真と名前のみ）を視聴して、よさを伝えるときに役立つ表現内容を考える。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年齢 ・ 職業 ・ 性格 ・ 特技 等</li> </ul> <p>○ 働かせたい見方・考え方</p> <p>※ 学習活動3に同じ</p>	<p>○ 未完成の例を聞かせて、付け加える内容や使う英語を子どもから引き出すことで、目的、場面や状況を明確にしたり、外国語によるコミュニケーションの見方・考え方が働き始めたりするようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">目的：あこがれの人のよさを分かってもらうため。 場面や状況：本番の発表に向けて班の人に自分の思いや考えを伝えたり、アドバイスし合ったりする。</p>
<p>3 自分のあこがれの人について伝えたいことを考え、「あこがれの人紹介」をつくる。</p> <p>○ 働かせたい見方・考え方</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">① 伝えたいことを考え、それに合わせて英語やジェスチャーを選ぶ。慣れ親しんできたもの以外を選ぶ場合は、みんなに伝わる英語か考える。 ② ①で英語を選ぶ際には、よさが伝わるようになるか考える。 ③ 選んだ英語をやり取りのどこに入れるか考える。 ④ よさが伝わるように語や文の順番を考える。</p>	<p>○ 下記のようにすることで、左に示した見方・考え方が働くようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">・ 「自分出発」「自分と仲間の力で」「みんなに伝わる英語かな?」「あこがれの気持ちをもってもらえるかな?」という言葉を子どもに示す。 ・ あこがれの人のよさが伝わるように英語を選んだり、順番を考えたりするように指示する。 ・ He か She を選んだり、can と be good at のどちらが合うか考えたり、“well” や “very” を付けるか判断したりするように指示する。</p>
<p>4 4人班で意見交換を行い、リハーサルをする。</p> <p>○ 「あこがれの人紹介」の流れ（例）</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Hello. (写真を見せて) This is my hero. She is ○○. She is my mother. She can play the guitar well. She is good at cooking. She is kind and active. She is my hero. Thank you for listening. ※ 伝わる声や表情等の態度面を意識したうで行う。</p>	<p>○ 上記下線部の視点をもって互いの「あこがれの人紹介」を視聴させることで、伝える工夫や、思いや考えについての思考を働かせながら、意見交換ができるようにする。</p> <p>○ 次のような姿を価値付け、ともに考えるよさや工夫して伝える喜びを感じられるようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">・ 仲間の考えを聞きながら紹介をともに考えている。 ・ 仲間の表現内容や発表の仕方について、頷き、表情、言葉（英語や日本語）で共感的な反応を返している。 ・ 仲間の意見を基に紹介内容を変更したり、始めより自信をもって話したりしている。</p>
<p>5 本時の学習をふりかえる。</p> <p>○ ふりかえりの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工夫したところや仲間のよかったところ</li> <li>・ 最終リハーサルに向けて一言</li> </ul>	<p>○ 自他の表現の工夫や発表会への期待が表れている感想を取り上げることで、表現内容を高め合うよさを全体で共有できるようにする。</p>

## ○ めざす子どもの姿

班の人にも考えてもらったけど最初に考えた文のままでよさそうだ。でも、文の順番は入れ替えようかな。○○さんには“well”を付けることを提案しよう。 【思考・判断・表現】

